

校務分掌・学年分掌マネジメントの計画力向上を目的とした

メンタリングシートの開発 ～ メンタリングの実践を通して ～

横浜国立大学教育学研究科高度教職実践専攻

藤本 祐之

1. はじめに

中学校の組織的特徴として、伊藤・柴田 (2014) は「教科担任制を基盤とした学年組織、校務分掌としての委員会組織等によるマトリクス組織である」としている。つまり中学校教員には、学年内外と様々な関わり合いを持ちながら、マネジャーとして雑多な校務分掌をマネジメントする力が必要である。中原 (2014) は、マネジャーを組織の最前線に立たせるのならば、それに対する支援を組織側が提供しなくてはならないとしているが、実質企業でさえマネジャー目線に立った組織からの支援は極めて少ないと指摘している。学校現場の OJT においても、マネジャーとしてどう校務分掌等を企画・運営していくかという視点のものは極めて少ない。よって中学校でも、物事をマネジメントする力を向上させる人材育成プログラムが必要である。よってその開発を行う。

本研究では、マネジメント力の中の「計画する力」に焦点をあてる。芝本 (2017) は、計画とはプロジェクトの地図とルートとして一番上流にあるもので、計画がまずなければ結果がうまくいくわけがないとしている。計画力を向上させる手法としてはメンタリングを行う。芝本 (2017) は、計画とはコミュニケーションしながら作るものだと指摘している。他者の新たな視点と自らの内省的思考を、対話の中で焦点化させていく必要性は高い。そこで本研究では、メンターとの対話を通し、若手教員のマネジメント力を育成するメンタリングシートの開発とその検証を行った。

2. メンタリングシート

メンタリングシートの主要素としては、①要求理解 ②現在の状況把握 ③プロジェクト定義 ④マイルストーン定義 ⑤既知要因の把握 ⑥新規要因のデータ化 ⑦生徒の参画範囲 ⑧チームメンバーへの役割分散の8つに分類した。⑦以外の要素については、主に浦 (2013)、芝本 (2017) の考えを参考に項目を作成し、⑦については中学校現場独自の要素として追加した。

メンタリングを2ペア行い、一方のメンターを経験10

3. 実践

年目教員が担い、メンティを経験5年目教員が担った。もう一方は、メンターを経験9年目教員、メンティを経験8年目教員が担った。本実践では、メンティが3年担任として、学校祭のブロック運営計画をするものと、もう一方はメンティが学校祭体育部門長として体育祭の運営計画をするもののふたつに取り組んだ。

4. 評価方法

明らかにすることは ①メンタリングシートを使ったメンタリングが成立したか ②メンティのマネジメント力 (の中の計画する力) が高まったかの2点である。①については、対話を時間と文字数について8要素に分けることと、メンターの質問とメンティの思考整理をもとに評価する。②については、メンタリングを行う前後に、メンティに他の行事プロジェクト運営計画をさせ、その事前事後の計画シートの変容分析を行い、発話との質的関係性を探る。また、事後にインタビューを行い、メンティの計画力向上のためには何が必要であったか、またメンタリングシートの有用性についても考察する。

5. 成果

分析の結果から2組のメンタリングは成立したといえる。そして一方のメンティは計画力要素②と要素③についての意識の向上がみられ、他方のメンティは、要素④要素⑦、要素⑧についての意識の向上がみられた。よって本研究において開発したメンタリングシートを使ったメンタリング実践を通して、メンティの校務分掌マネジメントの計画力向上のきざしが見られたと考えられる。

参考文献

- 伊藤文一、柴田悦子(2014) メンターを活用した若手教員のOJTについての一考察. 福岡女学院大学紀要, 人文学部編, 24 : 123-150
中原淳(2014) 駆け出しマネジャーの成長論. 中公新書ラクレ
芝本秀徳(2017) 誰も教えてくれない計画するスキル. 日経BP社
浦正樹(2013) 「実行」に効く計画の技術. 翔泳社